

## 第2回 赤穂市教育振興基本計画検討委員会 議事概要

1 日 時 令和7年12月19日（金） 15:30～16:20

2 場 所 赤穂市役所 第2庁舎 第2会議室

3 出席者

（1）委 員 有吉委員、前家委員、北里委員、猪谷委員、大手委員、田村委員、佐用委員、児嶋委員、新川委員、横田委員、元岡委員

（2）事務局 中田教育次長、河本教育次長、正木学校給食センター担当参事、長尾総務課長、山内こども育成課長、杉山学校教育課長、万代生涯学習課長、荒木文化財課長、岸本スポーツ推進課長、三上市民会館長兼中央公民館長、狩川図書館長、山田学校給食センター所長、宮本総務係長

4 傍 聴 なし

5 次 第

（1）第2期赤穂市教育振興基本計画〔中間改定〕（素案）について

（2）パブリックコメントの実施について

（3）その他

6 議事内容

委員長 定刻となりましたので、ただいまから第2回赤穂市教育振興基本計画検討委員会を開催させていただきます。

本日はお忙しいところ、赤穂市教育振興基本計画検討委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

はじめに、本委員会の成立について事務局より報告をお願いします。

事務局 委員総数12名のうち、柳原委員は所用のため欠席されております。現在の出席者は11名で、過半数に達しておりますので、赤穂市教育振興基本計画検討委員会設置要綱第5条第2項の規定により、本委員会が成立することを報告いたします。

委員長 なお、本日の委員会の傍聴希望者はございません。本委員会につきましては、要綱第5条第5項の規定により、原則公開することとしておりますが、発言者名を伏せて議事録を公開することとしてよろしいか。

委員 異議なし

委員長 異議なしというお言葉をいただきましたので、会議録については、発言者名を伏せて公開することとします。

委員長 それでは、議事に入ります。次第に沿って進めさせていただきます。

「2. 協議事項（1）第2期赤穂市教育振興基本計画〔中間改定〕（素案）について」、事務局より説明をお願いします。

事務局 （第2期赤穂市教育振興基本計画〔中間改定〕（素案）について、資料1「第2期赤穂市教育振興基本計画〔中間改定〕（素案）の主な修正内容について」及び「第2期赤穂市教育振興基本計画〔中間改定〕（素案）」に基づき説明を行った。）

委員長 ただいまの事務局の説明に対し、ご質問、ご意見等はありませんか。質疑がある場合は、挙手いただき、指名を受けてからご発言をお願いします。

委員

主な目標指標について、資料1では令和元年度の実績値の記載がありますが、素案では外れています。この計画は10年の計画ですので、流れがよくわかるように計画の中にも令和元年度の数値を残しておく方がよいのではないのでしょうか。また、主な目標指標の記載位置ですが、例えば資料2の24ページでは、実践目標1の一番最後にあるように、具体的な施策の説明の後にまとめて記載されていますが、施策が多い場合途中に記載されています。統一性の点から、最後にまとめて記載する方が見やすいのではないのでしょうか。次に、資料40ページの学校給食費の負担軽減の取組についてですが、報道等による国の状況を見ていますと公立小学校の給食費無償化について、具体的な金額も出てきており、パブリックコメントが2月予定ということで、それまでに制度設計がされていると思いますので、事務局の方でそれらを念頭に入れた形で記載方法を検討されてはどうかと思います。最後に、資料43ページの部活動地域移行について、スポーツの方はこれでいいと思いますが、文化の方はどうするのかという話になると思います。目標指標では、中学生が活動可能な地域スポーツ・文化芸術受入団体数ということで、文化を含んだ指標となっていますので、文化について本文にも書く方がいいのか、この取組はかなり大きな取組ですので、新たに1つ実践目標を入れるのがいいのか再検討された方がいいのかなと思います。以上3点を提案させていただきます。

委員長  
事務局

ただいまの件について、事務局から回答をお願いします。

1点目の令和元年度の実績も記載すべきではないかという点については、おっしゃるとおり10年間の計画ですので、令和元年度の実績、6年度の実績、12年度の目標値という形で記載したいと思います。記載位置についても、実践目標の一番最後にまとめて記載し、統一性を図りたいと思います。

2点目の学校給食費の負担軽減の取組ですが、赤穂市では幼稚園、小学校、中学校と給食を提供しておりますので、世代間での不公平が生じないような形で財政状況に応じて実施しております。現在第3子以降の完全無償化、全員の一部無償化を行っています。国においては当初小学校の給食費無償化ということをしていましたが、新聞等で月額5,200円を基準とするという報道がされました。こちらもそれ以上の情報を持っていませんので、国の施策については取り組んでいきますが、幼稚園、中学校についてどこまで実施できるかということについては、財政状況を見ながらということになります。本計画の計画期間もありますので、計画期間内に再度修正の必要がないように、パブリックコメントまでにどこまで記載できるかということもありますが、表現方法等は検討していきます。

3点目の43ページの部活動地域移行について、スポーツのみの実践目標になっています。例えば41ページの生涯学習の推進が文化面についての記載だと思しますので、ここに43ページの部活動の地域移行の文言から種目という表現を削除して追加し、目標指標も追加して、43ページの方は再掲として記載することを検討したいと思います。

委員

29ページに、地域や社会に貢献したいと考える児童生徒の割合とありますが、どのような質問をしてこの数字になったのでしょうか。

事務局

小学校は6年生、中学校は3年生で実施する全国学力状況調査の設問の1つになっ

ています。内容はこのとおりで、地域や社会に貢献したいと思いますか、というような質問になっています。

委員 質問の意図を理解して回答しているのか疑問に思ったのですが、貢献したいかどうかを回答する質問になっているのですね。

委員 34ページの特別支援教育の充実について、今回特別支援教育指導補助員の人数という指標がなくなって、自己肯定感を感じる児童生徒の割合に変わっています。この理由は何でしょうか。

事務局 この目標指標というのは、実践目標に対してここに書かれている取り組みをしたことによって、どのように数値が変わっていくかを期待しているものです。取組内容が補助員の人数の増加という数値に反映されているかという、そうではないと判断し、特別支援教育に係る様々な取組が特別支援学級や配慮を要する子どもたちを含む児童生徒の自己肯定感の向上につながることを期待し、このように変更しました。

委員 先ほどの地域や社会に貢献したいと考える児童生徒の割合のところで、それぞれ何パーセントかわかりますか。

事務局 小学生も中学生もほとんど変わらなかったと思いますが手元に資料がございません。

委員長 調査は個別に行っているのでしょうか。

事務局 そのとおりです。

委員長 中間改定の文字ですが、改訂と改定で資料の中で統一されていないように思うのですが、どちらの使用が正しいでしょうか。

事務局 前回も改定を使用していますので、改定で統一します。

委員長 47ページの数値目標のように、令和元年度から目標値が同じものになっている場合があります。実績値が低かったから再び同じというならまだわかるのですが、歴史講座等の実施回数については2回が続いています。継続実施していくというような意味合いでしょうか。

事務局 おっしゃるように継続実施していくという意味合いで記載しています。

委員長 それでは、可能であれば情報発信の継続に努めますのような文言にしてはどうでしょうか。

事務局 文言については検討したいと思います。

委員 それ以外にも令和6年度実績と12年度の目標値が同じ場合が3、4点あります。今で精一杯ということなのか、もう十分であるということなのか、お聞きしたいと思います。29ページの交流授業の回数や35ページの地域人材の活用などです。

事務局 どちらの指標にも共通して言えることは、学校行事等により回数が減る場合がありますので、維持をしていこうという姿勢を表しています。交流授業については、GIGAスクール構想が開始したり、配慮を要する児童生徒の増加などにより内容の拡充にはなっています。その上で回数は減らすことの無いようにということで同数での目標を設定しています。地域人材を活用した取組数については、各校の学校運営協議会の活動を念頭においています。時間がとれなくて実施できなかったということの無いように、これだけの回数は取り組んでいこうということで設定しています。

委員 ということは、回数的には十分であると考えているのでしょうか。

事務局            そのとおりです。

委員長            それでは、市民の方が見てもわかりやすいように、継続していくというような表現があった方がいいかと思います。

委員              24 ページの子育て支援体制の充実に関する目標指標のうち、子どもが喜んで幼稚園に通っていると思う保護者の割合についてですが、12 年度の目標が 100 %となっています。思うという点に 100 %という考え方はどうなのでしょう。また、40 ページのアフタースクール登録児童数は 12 年度に 568 人と、他の目標指標と比べて細かくなっています。その理由は何でしょうか。

事務局            幼稚園の数値の集計方法ですが、令和 6 年度の 1 学期末に各幼稚園で保護者の方にアンケートを実施しており、子どもが喜んで幼稚園に通っているという設問に、よくあてはまる、ややあてはまる、と回答いただいた方の割合を 6 年度の実績値としています。目標値が 100 %の理由ですが、少し過大に思われるかもしれませんが、幼稚園教育を充実させることによってこの数値を達成したいという思いをもって設定しています。

                      アフタースクールについては、赤穂市子ども計画の数値を用いており、将来の児童数見込みやその中でアフタースクールに登録している割合を、一定の算式にあてはめて算出しています。

委員長            喜んで通っていると思う割合を下げて設定するのは心情的にも難しいかと思えます。こうありたいという方向目標という意味合いということで理解しました。

委員              44 ページですが、赤穂市の小学生は県下でも体力に関する数値が低いという課題がありますのでスポーツに力を入れていかなければいけないと思っています。スポーツ少年団登録者数を令和 6 年度の 578 人から 6 年後に 750 人としていますが、子どもの数が減っている中で増やしていくのはかなり難しいと思います。具体策はあるのでしょうか。

事務局            令和元年度と 6 年度の実績から設定しており、児童数約 1800 人に対しての数値となっています。意欲的な部分もあるのですが、少年団の活動を一覧にしている少年団ナビというのを年 1～2 回、幼稚園と小学校に配布しており、特に新 1 年生を中心に PR 活動をしています。そういった地道なところからできる限り地元の少年団に参加していただくという点の強化が必要で、そうしないと中学校、高校へつながらないと考えますので、引き続き活動していきたいと思っています。

委員長            意見も出つくしたようですので、まとめさせていただきます。本日協議いただきました事項について、再度修正の必要があるものについては、事務局で修正の上進めさせていただきます。

                      後ほど事務局より説明があると思いますが、パブリックコメントの予定が 2 月 2 日からということもあり、その修正案については皆さまにお諮りすることが難しいため、委員長と事務局に一任していただけますでしょうか。

委員              異議なし

委員長            ありがとうございます。それでは次に進みます。「協議事項（2）パブリックコメントの実施について」、事務局の説明をお願いします。

事務局            （ パブリックコメントの実施について、資料 3「第 2 期赤穂市教育振興基本計画

〔中間改定〕（案）に対するパブリックコメントの実施について」に基づき説明を行った。）

委員長           ただいまの説明についてご質疑ございませんか。

（ 意見等なし ）

委員長           次に、次第3その他としまして、事務局から何かございますか。

事務局           今後のスケジュールですが、本日ご意見をいただきました素案について、事務局で修正を加えまして、定例教育委員会において報告し、教育委員の方からもご意見をいただきたいと考えております。その内容を踏まえて計画案としてとりまとめ、その計画をもって2月2日からパブリックコメントを実施したいと思います。なお、次回の委員会ではパブリックコメントでいただいた意見のご報告と、その意見に対する事務局の考え方をご説明し、修正の可否を含め計画案を確定したいと考えております。次回の開催時期については、3月中旬を予定しております。日時が決まりましたら改めてご案内します。

委員長           次回、皆さまにお集まりいただきますのは、3月とさせていただきたいと思います。後日、またご案内させていただきますので、よろしくお願いします。

全体を通してご質問、ご意見等がありますでしょうか。ないようでしたら、本日の議事は終了いたします。

本日は、長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。今後は、パブリックコメント終了後、もう一度お集まりいただくことになりますが、よろしくお願いします。

これをもちまして委員会を閉会いたします。皆さまお疲れさまでした。